

令和5年度共同運航実習船「翔洋丸」第2次遠洋航海実習（R6.2.4）

1月28日より操業実習が開始されました。生徒の実習内容を簡単に紹介します。

生徒は投縄、揚縄に分かれてそれぞれ実習を行います。投縄は朝5時から開始され、2時間半かけて1300本の釣針が付いた縄に餌を付けて海に入れていきます。生徒は釣針に付ける二種類の餌（サバ・ムロアジ）を運んだり、漁具（浮玉）をセットしたり、コンベアを動かしたりと、作業自体は難しくありませんが、少しでも遅れたりミスがあったりすると全体の流れが悪くなってしまいますので、一瞬たりとも気を抜くことは許されません。それから半日ほど縄待ちをして、13時より揚縄を行います。ここで生徒が行う実習は、乗組員が回収した漁具（浮玉）についているロープを素早く綺麗に束ねて片付けをしたり、揚げた魚の体長測定、記録などを行ったりします。この期間、操業に関する実習だけでなく、学校課題や資格取得のための学習、航海・機関当直、海洋観測、食当などの実習も行っています。

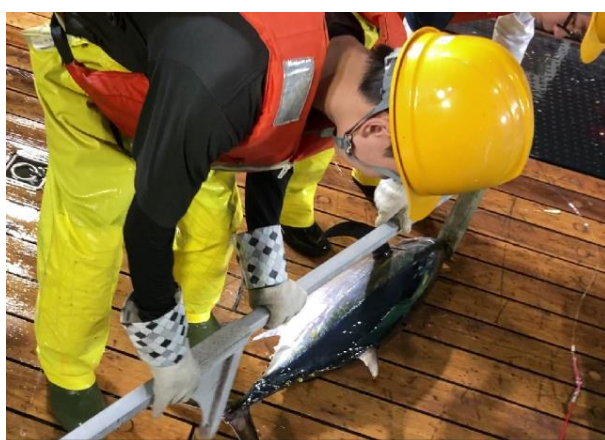
～投縄・揚縄実習のようす～



投縄実習①



投縄実習②



揚縄実習①



揚縄実習②

初日から、これまで以上の漁獲量を記録し、生徒たちは慣れない操業実習の中でも、充実した実習を行うことができます。実習といえども、記録などはミスが許されないため、忙しい中でも慎重になる必要があります。操業実習では、単にマグロ延縄を学ぶだけでなく、周囲と協力したり、また周囲の状況を常に意識したりすることによって船乗りとしての資質を養うことができます。これからしばらく操業実習が続きますが、実習を通して生徒の大きな成長に期待したいと思います。船酔いもなく、全員元気に実習を行っています。

～漁獲物の紹介～



クロカジキ (100kg 超え)



アカマンボウ



クロカジキ



クロタチマス



ビンナガマグロ



アブラソコムツ